

「農業・食料産業イノベーション大賞2011」授賞式に参加して
農研機構中央農業総合研究センター
佐藤正衛

はじめに

去る平成23年3月9日、東京ビッグサイトにおいて「農業・食料産業イノベーション大賞2011」授賞式、受賞者各位の講演が催されました。同大賞は、今回が3年目であり、農業情報学会も実行委員会構成団体として協賛しています。

今年度は次の方々が受賞されました。

<農業・食料産業イノベーション大賞受賞者>

大賞：農業生産法人・さかうえ様

ビジネスモデル部門賞：ホープ様

新技術部門賞：信州サラダガーデン様

選考結果の講評についてのリンクはこちらです。

農業・食料産業イノベーション大賞ホームページ <https://www.jsai.or.jp/innovation/>



図1：授賞式場所となった東京ビッグサイト

授賞式と受賞者講演

授賞式は、リテールテック JAPAN 等が催され多くの人で賑う東京ビッグサイトで開催されました。展示会場ではなくセミナー用の別棟でおこなわれましたが、受賞者、関係者以外の一般の方々も数多く参加され、総勢100名近くの人々が集まりました。農業・食料産業への関心の高さを感じさせられました。



図 2： 授賞式会場の様子

授賞式に続いて受賞者各位による講演がおこなわれました。



坂上隆氏（農業生産法人さかうえ代表取締役）は、農業経営をおこなううえで経営ビジョンを、哲学性・環境性・経済性をキーワードに語られました。またそのビジョンを具体的にどのように実践していくのか、その過程で IT をどのように利用しているのかについて、実際の経営、農作業の場面に触れつつ紹介されました。

ホープといえば有名ないちご品種ペチカの開発で一般に知られています。中村英之氏（ホープ代表取締役副社長）は、その後継品種ペチカサンタ、ペチカプライムの開発と供給体制の確立をどのように成し遂げたのかを語られました。そのビジネスモデルには、苗の育種・販売だけではなく、いちご果実の買取を通じた生産農家の収入安定化の視点も盛り込まれていることが印象的でした。



小林豊氏（信州サラダガーデン代表取締役社長）は、外国産野菜と価格面でも競争できるようにとの経営目標のもと、どのように施設野菜栽培技術を確立してきたかパプリカを事例に紹介されました。オランダや韓国といった先進地域の技術を学びつつ、さらにそれらを日本に適用するための研究の経過を詳細に語られました。新技術を積極的に導入し、自らも技術革新に取り組んできた姿勢からは、技術経営の実践者である印象を持ちました。

また本授賞式と併せて開催されました講演会の講師各位をまじえたパネルディスカッションもおこなわれ積極的な意見交換がおこなわれました。

おわりに

今年で 3 年目を迎えたイノベーション大賞ですが、その受賞者講演を聴いて毎年感じることは、受賞者のかたがたの観察眼の鋭さ、経営ビジョンのわかりやすさ、そして話す内

容の新鮮さです。このような機会にふだんなかなか接することがないため、自身の研究のヒントを多く見つける貴重な機会だとも感じており、今から来年の授賞式が楽しみです。



図 3： 受賞者各位との記念写真